

石川県教育委員会指定「いしかわ学びの指針12か条」研究推進校
珠洲市教育委員会指定「生きる力をはぐくむ」教育研究推進校

平成25年度（研究2年目）

言葉のスケッチ

学校研究リーフレット Part II



活用力を高める

自分の考えを筋道を立てて説明できる子の育成

～学んだことを活用する場を意識しての授業づくり（国語科・算数科）～

筋道を立てて説明できるためには、これまでの学習や経験から思考し、判断して、根拠を明らかにして自分の考えを表現する必要があり、その力が活用力育成につながると考えています。

単元まるごと活用

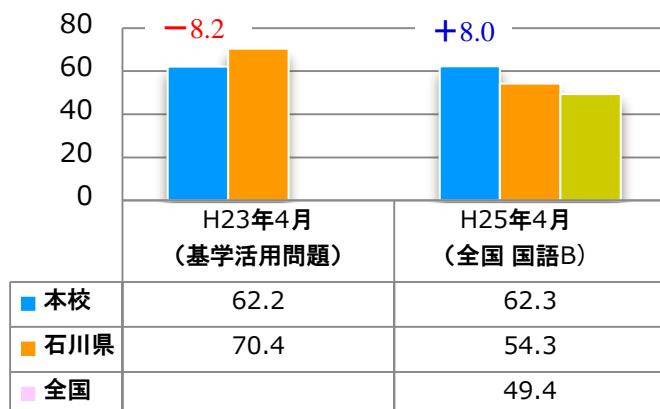
珠洲市立飯田小学校

ホームページ：<http://cms1.ishikawa-c.ed.jp/~iidaxe/NC2/htdocs/>

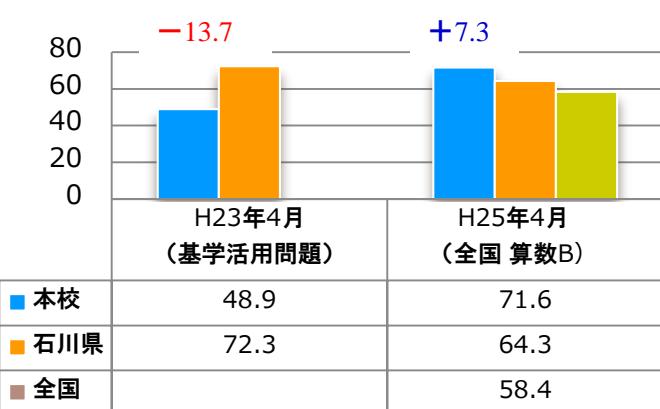
= 検証 = これまでの取組の成果

学力調査結果の変化 (本校と県の差)

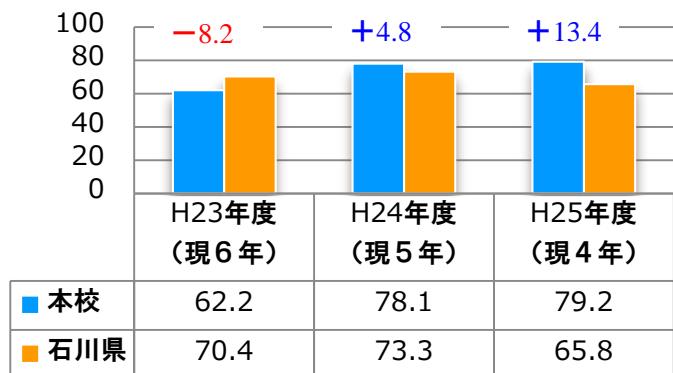
現6年生 学力調査の活用問題正答率(国語)の推移



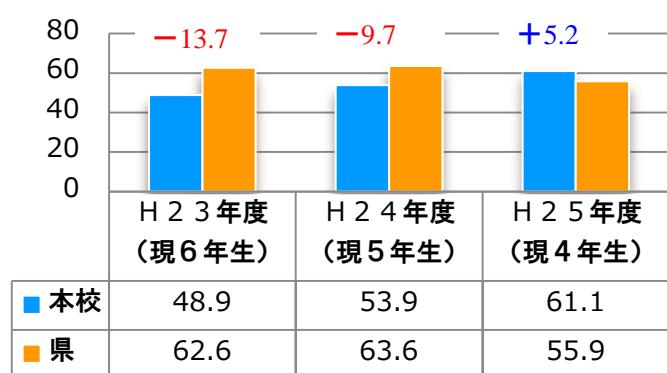
現6年生 学力調査の活用問題正答率(算数)の推移



県基礎学力調査(4年)国語 活用問題正答率経年比較



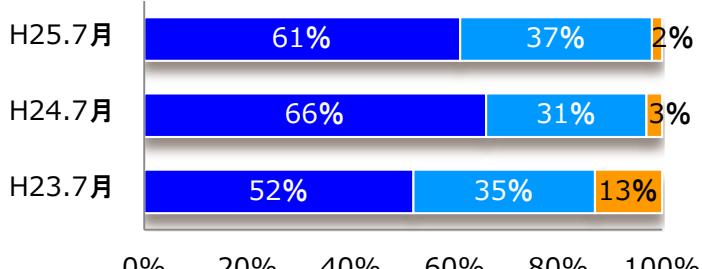
県基礎学力調査(4年)算数 活用問題正答率経年比較



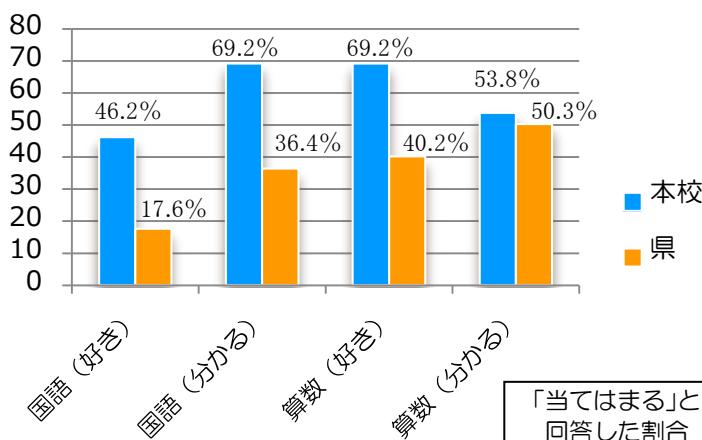
児童の意識の変化 (児童アンケート結果)

■ そう思う ■ だいたいそう思う ■ あまり思わない ■ 思わない

「授業の中で、根拠を入れて自分の考えをわかりやすく説明することができた。」



「国語/算数の勉強は好きですか。」全国質問紙調査より
「国語/算数の授業の内容は分かりますか。」



2年目の研究から見えてきたこと……

- 活用力を高めるために、学習を支える学習基盤と学習意欲を重視して、学校研究を進めてきた。
- この2年間の主な成果としては、下記の通りである。
 - 三角ロジックの手法を取り入れる中で、キーワードを基に根拠、理由を見つけ出す思考が身についてきている。そのことにより、学力調査問題記述式の対応ができる、同時に無回答が減ったと考えられる。
 - 単元まるごと活用については、複合的に考える力(多面的に捉える)が身についてきていると考えているが、子ども達の変容をどう捉えるかが課題である。
 - 「言葉のスケッチ」によって、条件や交流時間を設けることで、語彙力、表現力がゆっくりであるが豊かになりつつあり、意図を持った表現や技法が見られるようになってきた。